4/17

全共闘八項目要求の下、否応なしの学生動員数を拡大し、全ての反革命を粉砕せよ！

反帝戦線
4.17
大阪市立大学
反帝学生戦線発行

当局の斗争収拾策動＝4・17協議会提案、寺小屋方式を粉砕せよ！

昨日の全学共斗会議準備会の連絡会議において、下記の　項目要求が確定された。この項目の我々の論理的位置づけは一応次の様に描くとして、我々は断固として、全この市大人民この要求項目に結集し、全共斗運動一決定し敢行するコムミューン・ソビエトとしての全共斗の更なる深化、拡大の下にしか、市大斗争の勝利はありえないものとそなえる。

全ての学部学生、院生、教職員諸君は、既に結成され、教養学部封鎖以来2ヶ月余の苦しい斗いの女神にたち続けた文学部斗争委員会、大学院生斗争委員会連合、理学部共斗会議等に続き、全ての学部・クラス・サークルに斗争委員会、行動隊を組織せよ！

当局のこれまでの全共斗の斗いに対して取ってきた態度は、実にヒレツである。即ち、徹底した全共斗の斗いと学友諸君の分断であり、表面的な民主的対応＝全共斗の無視と陰に隠れた非暴力的暴力＝有形無形の権力による学友諸君の圧殺である。それは4・7提案と寺小屋方式による授業の再開として新入生に対する21日の学外での各学部別の入学式、オリエンテーションとして象徴される。4・7提案の意味するものは、学生に対する事前合議制、一回限りの差し交し権を認める事により、一定程度の譲歩を示したように思える反（その事は斗争をやった事のない民主化斗争屋の諸君の顔、ている全ことを含んでいるのだ）らしその実、決定するのはあくまで責任の所在を明らかにするために協議会、教授会なのである。この事は、今迄、教育的処分という名目で思想的弾圧を加えてきり、研究の自由という美名の下に米軍の細菌兵器を作る奴隷であった教授たちの課題の決定過程に学生を一切関わらせまいとする教授たちの意思決定は教授会の独裁によって決まるという、学生を2重3重にしめ上げるところの近代化路線でしかないのだ。寺小屋方式、学外入学式は、有形無形の人間関係と市民社会秩序を建前に、斗争の核心に全く触れないで斗争放棄を謀る極めて悪らつなやり方である。何故なら、全共斗と共斗していない人達が実際斗争に入って行くのに困難な人達、教授の目の前で全共斗を共斗する此はどうするだろう？　学生はその事によって、余りに大きな何物もないのだ。現体制を変革する困難性と、それに直接に関わる者の恐れは、対し場面でも全く異っているのだ。教室会議、ゼミ、ゼミ、ゼミ、斗争をスキップする反面、その裏を合の前で。

諸君を騙そうとしている諸君！　我々は騙された諸君！　孤立した斗いは集団的暴圧によって圧殺されるのは眼に見えている。全共斗、各斗争委の下、組織的な道雪、ゲリラ戦に参加せよ！　経斗委は本日100名の結集で、その結成集会をかちとるであろう。家斗委、エ斗委も着々態勢を整えつゝある。

明日、民青、声の反革命集会をコッパミジンに粉砕し、全大阪の反戦青年委との労学共斗、春斗勝利、中核派奪還阻止＝入革命的に決起せよ！

元毛利研究室、四国斗争勝利、春斗勝利、中核派奪還阻止＝入革命的決起せよ！